

# 学びを深め、学びをつなぐ ～主体的・協働的な学びを目指して～

長岡京市立長岡第五小学校

## 全国学力・学習状況調査の結果における特徴

国語科・算数科ともにほとんどの領域・観点で全国平均の正答率を上回った。特に B 問題（活用問題）では、理由を明確にし、自分の意見を表現したり、既習事項を用いて説明したりする記述式問題において、全国平均を上回った。また、児童質問紙から「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」の項目において、全国の割合に比べ、肯定的に回答している児童が多かった。

## 全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

### 授業における取組

#### 1 実践の目的

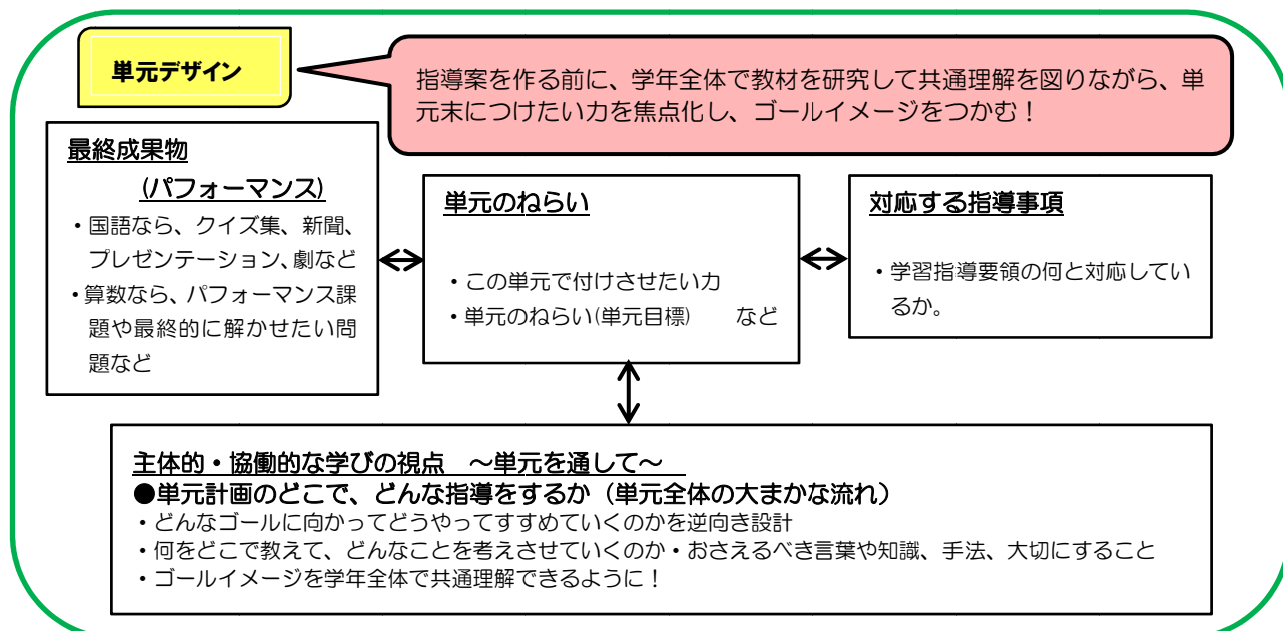
各種学力テストや児童アンケート等の結果から、学習が十分に定着している児童とそうでない児童の差が大きいこと、思考を伴う問題には苦手意識があること、既習事項を活用して解決する力に課題が見られるという結果が得られた。また授業では、学習に対して受け身で、主体性に欠ける児童が多いということから以上のことを改善するために取り組む。

#### 2 実践内容

- (1) 指導案作成時に単元末や毎時間後に児童につけたい力を焦点化・視覚化し、児童の最終成果物や振り返り等から逆向きに設計する。
- (2) 知っていることやできることを組み合わせたり、発展させたりする活用型授業を工夫し、個や集団で課題を解決する学び合いの学習経験を積み重ね、主体的な言語活動を充実させる。
- (3) 授業後の「振り返り」を大切にし、児童の学びを深めたり、メタ認知を育てたりすると同時に、学習意欲や自己肯定感を高める。

#### 3 工夫や改善した点

- (1) 「単元デザイン」の作成



(2) 児童の主体的・協働的な学びを通した「深い学び」を目指した授業作りの工夫

- ・児童の興味・関心を高め、「やってみたい」と思える課題提示や適応問題の設定。
- ・アクティブ・ラーニングの手法（グループ技法）や思考ツールの活用。
- ・「なぜそうなのか」と根拠付けて思考することを大切に。
- ・学習したことを自分の言葉で振り返り、自分の成長を意識できるようにすること。
- ・学び合いを視覚化したり、話し合いを活性化したりできるタブレット等の ICT 機器の有効活用。



#### 4 児童の変容や教師の変容

- ・「単元デザイン」を作成し、教師間で共通理解を図ることでポイントが明確化し、目的意識を持って授業改善に取り組むことができた。
- ・身に付けた知識や技能を活用させる授業を積み重ねていくことで、児童の学習意欲が高まり、主体的に取り組む姿が見られるようになった。
- ・授業形態のねらいを明確にして、ペア学習やグループ学習を設定することで、児童が相互の意見や考えを理解し、学びに深まりが見られるようになった。

### 授業以外の取組

#### 1 生活と学習習慣の形成

##### (1) 生活・学習点検『G oウィーク』

学期に1回、学習習慣と生活習慣について

1週間、児童自身が見直しを図る。

##### (2) ノート指導

『「良いノート」と「手立て」まとめ』を活用

し、教師間で共通理解を図り、系統立てた指導をしている。また、年に1回ノートを公開する機会を設定し、児童がノートに対する意識を高められるようにする。

##### (3) 家庭学習・家庭連携

長期休業を利用して、習得した知識や技能を活用して解決できるような課題や親子でいっしょに取り組んでもらえるような課題設定をし、学びを広げたり、コミュニケーション能力を高めたりできるようにしている。また日々の家庭学習においては、「家庭学習の手引き」をもとに児童が主体的・計画的にすすめることができるようにしている。

#### 2 学習の土台づくり

##### (1) 話し合いの時の「話し方・聞き方」についての指導

低・中・高学年に合わせた話し合いの時の「話し方・聞き方」の目標を設定し、系統立てて学びの素地作りができるようにしている。また、掲示物を作成し、学習形態に合わせて具体的に示すことで、話し合い活動が豊かなものになり、理解が深まっていくことを大切にしている。

##### (2) 学習環境の整備

各学年が校内の掲示板を活用し、楽しみながら解けるような問題や活動の様子等を掲示物にして貼り、児童の学習に対する意欲・関心を高められるようにする。

##### (3) 児童の実態把握と授業改善に向けて

児童向け自己評価表を作成し、学習の初めと終わりの児童の興味・関心、理解度などを確認し、実態把握をしている。また、児童自身が自己評価を取り入れることで、学びの深まりを実感する機会となっている。この結果をもとに、授業改善や児童への丁寧な支援等に取り組んでいる。

「良いノート」と「手立て」まとめ		
低 → 中 → 高		
授業の流れが分かる めあて⇔まとめ		
ていねい	整理	自分で考える
<b>良いノート</b> ・ていねいさ（字形、大きさ、書き） ・ていねいさ（定規、下書き、プリントの貼り方） ・日付 ・板書に印したノート（しりとり学習）	・行割、マス目を意識（行やマスの明け方） ・図表で整理 ・色分け ・簡潔書きの書き方、まとめ方（箇条書き）	・板書以外のメモ（先生、友達の話したこと、疑問、発見など） ・意見→交流、授業→再考 ・意見の採録、具現性（自分の考え） ・学習したこと、まとめ、振り返り
・学習のふりかえり	・思考の流れが際立っている（誤答と正答が際立っている）	
<b>手立て</b> ・多すぎない板書 ・めあての提示 ・子どものスピードを視ながら ・板書の整理（マス目裏紙の活用②×②） ・時間の確保 ・その際指導、その際評価 ・学年での統一（次年度以降への基礎づくり）	・レイアウトを示す ・話す・聞くの態度を入れる ・教科系のルール（少人数）	・子どものノートを整理した教師の板書 ・評価 ・声掛け ・みてほしいだね ・友達の話から考えたんだね ・よく聞いていたね、大事だね ・質問のふりかえりの確認確保 →自主的にメモすることへの意欲を高める。